

# 社友会だより

## 第 42 号

発行 センツウ社友会

住所 神奈川県横浜市南区芹が谷 4-27-19

〒233-0006 大和田輝彦 内

編集者 濱田 治

### \* 平成26年度第1回役員会開催 \*

○開催日時 平成 26 年 7 月 18 日 14:00～16:00

○場 所 島嶼会館 第1会議室

東京都港区海岸 1-1-15

○出席者 首都圏在住役員7名(法安、大場、崎  
山、大和田、松原、長谷川、濱田)

#### 1. 議題・議事

##### (1) 26年度活動計画の実施状況について

大和田事務局長から資料に基づき活動計画実施状況の説明があった。なお、役員会の開催曜日は次回から土曜日とする。

・春季ゴルフコンペ: 濱田理事から9名の参加を得て開催した旨、報告があった。

・中部支部懇親旅行: 本田副会長から山中温泉で18名の参加を得て、開催したとの報告があり、事務局がその旨披露した。

##### (2) 社友会「首都圏懇親会」開催の可否について

首都圏懇親会は、参加人数が減少してきていることから、同窓の集いに集約することとし、廃止してはどうかとの意見が出され了承された。

##### (3) 報告事項等

①事務局長から、25年度以前の会費の収納状況、会員の入退会状況等について説明があった。

②総会・懇親会における名札は次回から準備することとした。

③26年度中央地域同窓の集いは、会場予約の関係から11月22日(土)に予定することになった。

④社友会だよりの掲載記事収集について、各支部からの記事提供を要請することとし、事務局、地域連絡担当、編集担当連名で支部に対する依頼を行う。また、各支部の持ち回りで記事の取りまとめをお願いすることとした。

#### 2. 次回の役員会

第2回役員会は、平成26年10月18日(土)14時から島嶼会館にて開催する。

### 船舶通信センター建設の経緯など

秋久幸雄さんが思い出を語る！

#### 【 船舶通信技術センタービル建設の提案 】

昭和45年以来、電信電話公社(以下 NTT という)で船舶電話の自動化計画が進められていましたが、



その実施が迫りセンツウの社内でも自動化計画を円滑に推進するため諸々の検討を目的に昭和49年5月本社内に臨時自動化対策部が設けられました。

船舶電話の自動化はセンツウにとってかつて経験したことのない大事業で、前もって準備すべき非常に多くの課題がありました。

なかでもメーカーから受け取る多数の船舶電話装置を収容する場所、無線局の免許取得のため電波管理局の検査を受ける場所、受験準備のための場所の確保に迫られていました。

一方、加入者からの多様な要望やサービスの向上につながる機器の開発、劣悪な環境に耐える機器の検討、その他電波干渉・妨害の解明、雑音・誘雷対策など、解決すべき技術上の多くの問題を抱えていました。これらの技術上の問題解決に当たって昭和49年に東京営業所に設けた特別検査室で小規模な試験を行うほか多くをメーカーに依存して

いました。このような状況から抜け出すためにも、自主技術の開発や技術的諸問題の検討の場を設ける必要がありました。

これらの理由から昭和50年夏「船舶通信技術センタービルの建設」が幹部会議で承認されました。

### 【船舶通信技術センタービル建設の目的と名称】

センタービル建設の必要性はすでに述べましたが、簡単に整理すると会社内の主として技術関連部門を収容し以下の業務を行うことでした。

1. 自主技術、自主商品の開発
2. 技術上の諸問題の検討
3. 無線局開設に伴う電波管理局の検査準備と受験
4. 無線電話装置の設置、保守作業の計画・管理
5. 社員訓練
6. 機材・保守部品倉庫

以上のような使用目的から建物の名称を船舶通信技術センターと命名することにしていたのですが、川崎市から「当該地区は埠頭に関連した商業地区に指定されているので技術センターでは困る、変更するように」との指導がありやむを得ず船舶通信センターとなりました。

### 【建設用地の確保】

取締役会で技術センタービルの建設が承認されたすぐ後、当時の井田社長より候補地を選び報告するようにとの指示があり、神奈川県内で適地を探すことになりました。先ず用地として価格の他、センツウ本社と横浜支店およびメーカー2社(アンリツ、日本無線)からの交通の便が良い場所を条件に多摩川べりの梨畑、第3京浜道路の港北IC近く、大和市内など数か所を選び順次報告しましたが、何れも社長の承認が得られませんでした。

その理由は

- ① 奥の方に瀟洒な研究所を開設することではないこと
  - ② 会社の現場は海であり海に直結したロケーションであること
- と言うことでした。

しかし、海近くに適当な場所を見つけることは難

しく困惑していましたが、そのうち川崎の柿生ご出身の元参議院議員でセンツウの二代目社長鈴木恭一氏の口利きで川崎市から臨海地の一部を譲り受けることになりました。化学コンビナートに隣接する当該地は悪臭が漂い、特に北東からの風の時、強い臭いがあり最適とは言えませんでした。空調設備を完備することで計画を進めることになりました。

### 【センタービル建設の推進】

センタービルの建設は、NTTの局舎等の建設実績の多い共立建設㈱が担当することとなり、一方、会社の担当部門として昭和51年5月24日付でセンター開設準備室(石田室長、他4名)を設け建設を推進することとなりました。

用地の地盤調査の結果、表面から数メートル下に僅かに硬い層があるのみでその下は再び軟弱な層となっていることが判明、重い建築物を載せ安全に維持するための工法が検討されました。その結果、多数の杭を打ち込みそれらを互いに連結した台を造り、その上に建物を載せる方法が採用されたと聞いています。

センタービルの起工式は昭和51年12月21日に会社、建設会社の関係者が参列して神式で厳かに執り行われました。軟弱地盤の上での悪条件にもかかわらず工事は順調に進み、着工から11か月後の昭和52年11月末には立派なセンタービルが完成しました。

一方、社内では昭和52年12月1日付で新たに技術部が出来るなど組織が整備され、センタービルに技術部、施設部(検査部門)、保全部、営業部(料金部門)の他、総務部(センター庶務部門)が入居し、本社機構の一部として業務がスタートしました。

また、翌年の昭和53年3月にNTTの秋草総裁をはじめ郵政省、川崎市、NTT、船会社、アンリツ電気㈱、日本無線㈱等から約100名のお客様を招き開設披露を行いました。

以上、船舶通信センタービルの誕生までの経緯

を述べましたが、ビル完成以来今日まで38年間にわたって船舶の電話サービスの拠点として立派に機能し、サービスの信頼性向上と普及、発展に大きく貢献できたと思っています。

この3月末日でその役目を終え閉鎖されることになりましたが、まだ築40年足らずです、所有者が変わることがあっても今後も大事に扱われ、何時までも建物として存在してほしいと思っています。

(船舶通信センタービル閉館の関連記事は第41号に記載)

## 山中温泉に集う 中部支部

平成26年5月24日～25日、新緑に輝く山中温泉へ1泊旅行に出かけました。

今回も、関東方面から清水さん、長谷川さん、濱田さん、橋爪さん、神戸から富田さんの参加を得て過去最大の18名の人数での旅行となりました。

宴会前には、参加者が持ち寄った、おつまみ、酒、ビールで既に宴会が始まっていて既に出上がった人もチラホラ、ビールが注がれると一瞬至福の空間が生まれ本番懇親会へと流れて行きました。

支部長の乾杯の音頭で懇親会が始まった。

お互いの近況、日頃の出来事、家庭のことや、昔昔の現役時代の話に花が咲き乱れ、賑やかな懇親会となりました。

引き続き部屋の応接間にて二次会開宴、本番より声高らかに話の応酬、白熱した、いや赤熱した議論続出、深夜まで続きかってない二



次会となりました。

翌日、朝食後、奥田さんから25年度の支部活動報告及び26年度の活動計画の説明があり満場一致で承認されました。

この日も快晴に恵まれ各人、各グループが計画した目的地(永平寺、一乗谷朝倉遺跡等)へ、ホテル前にて再開を約し散会しました。今回も、有意義な旅行となり、より親交が深まったと思います。

レポーター 本田太作さん



## 26年度春季ゴルフコンペ開催

### 加藤恒男さん優勝

平成26年5月14日(水)クリアビューCCに於いて恒例のゴルフコンペが開催されました。

当日は、前日の風雨が強かった荒れた天気から一変し、薄曇りの絶好のゴルフ日和となり気持ちよくプレーすることができました。

今回も3組9名参加の少々寂しいコンペとなりましたが、全員元気よく熱戦が繰り広げられました。

そういう中で、グランドシニアのベテラン勢が揃った林さん、沖本さん、加藤さんのパーティーが前回同様に日頃の実力を発揮し、加藤さんが優勝、林さんが準優勝を獲得しました。

参加された方々と入賞された方は次の通りです。

### 「参加者(スタート順・敬称略)」

1組・・・阿部正一・山形剛志・黒田繁雄

2組・・・林 憲男・沖本良平・加藤恒男

3組・・・足助 正・濱田 治・菅原志郎

### 「入賞された方(敬称略)」

順位	氏名	グロス	ハンディ	ネット	その他
優勝	加藤恒男	100	27	73	
二位	林 憲男	89	14	75	
三位	黒田繁雄	101	26	75	DC

### 「優勝された加藤恒男さんの喜びの声」

平成7年に当会ゴルフコンペに初参加して以来、既に20年になります。この間メンバーも大分入れ替わってきていますが私も極力参加させていただき、ゴルフを楽しんでまいりました。しかし、入賞すれども優勝には縁がありませんでしたが、今回20回目の快挙、初優勝とのことです。

これには理由があります。①当日は雨もやみ、絶好のゴルフ日和であったこと。河川敷のゴルフ場であるが新緑が美しく、カート移動中に野鳥、特にキジなどが見られ心が和んだこと。更にハンディキャップが高かったこと。②週末に通う自宅近くのゴルフ練習場のレッスンプロと一緒に、今年1月にイスラム圏のマレーシアゴルフツアーに参加し、クアラルンプール市近郊のゴルフ場でアドバイスを受けながらプレーしたこと。③同伴メンバーに恵まれたこと。

ご一緒させていただいたのは林憲男さんと沖本良平さんでした。両者とも80歳を超えられていますが、ゴルフに対する真摯な態度に私も発奮し頑張れたこと。

次回は今秋10月15日の予定です。皆さん一緒にプレーしませんか？

レポーター 濱田治さん



## 飛鳥Ⅱ 出航風景

7月1日、飛鳥Ⅱが横浜・大榎橋に寄港しました。飛鳥Ⅱは、1990年6月に「クリスタルハーモニー」(バハマ船籍)として三菱重工長崎造船所で竣工し、2006年1月に郵船クルーズ株が本船を買い取り、日本向けの改装を施し、飛鳥Ⅱとして運航を開始しました。

本船は、総トン数5万トン、全長241m、乗客定員940名、乗組員数440名の日本籍では最大の客船だそうです。

この日は天気も良く、午後2時の出港に合わせて多くのカメラマンが大榎橋に集まっています。

飛鳥Ⅱは、定刻に汽笛を鳴らし大榎橋を離れ、ベイブリッジの下を抜けて横浜港を出港して行きました。



レポーター 濱田治さん

### 編集担当者の交代

今回から、編集担当者が大場さんから濱田に交代しました。

大場さんは、平成15年5月の第2号から平成26年5月の第41号まで長きにわたり担当され紙面の充実に寄与していただきました。ありがとうございました。

今後も、会員相互の情報交換を中心に内容を充実させていきたいと思っておりますので、地域のイベント情報、会員の趣味・出来事等多数お寄せいただきますよう、お願いいたします。